

ワクチンで防げる病気 VPD (Vaccine Preventable Disease)

Vaccine Preventable Disease の頭文字をとって VPD

“ワクチンで防げる病気” という意味です。

VPD はワクチンをすることで予防できるので、接種可能なものはできるだけ早く摂取しましょう。

こどもがかかりやすい VPD には以下のものがあります。

| | | |
|-----------|-------------|-------------|
| Hib 感染症 | ポリオ | インフルエンザ |
| 肺炎球菌感染症 | 結核 | ヒトパピローマウイルス |
| B 型肝炎 | 麻疹 (はしか) | A 型肝炎 |
| ロタウイルス感染症 | 風疹 | 髄膜炎菌感染症 |
| ジフテリア | おたふくかぜ | 黄熱病 |
| 破傷風 | 水痘 (みずぼうそう) | 狂犬病 |
| 百日咳 | 日本脳炎 | |

予防接種でおなじみの病気がいっぱいありますね。これだけの病気をワクチンで防ぐことができるのです！ VPD はワクチン接種をすることで予防できるので、接種可能なものはできるだけ早く摂取しましょう。

ワクチンがないマラリアは 2013 年に約 2 億人感染して 60 万人程度死亡したと発表されています。イギリスではロタウイルスワクチンが定期接種になった後ではロタウイルス感染症が約 8 割減りました。日本でも Hib ワクチン、肺炎球菌ワクチンが定期接種になり細菌性髄膜炎が激減しました。

予防できるワクチンをせずに病気になってしまい、場合によっては死亡したり後遺症を残したりする危険性を考え、接種可能になったらすぐに予防接種をすることをお勧めします (生後 2 か月からできます！)。

もちろん発熱や接種部位の腫れなどの副反応はよくありますし、非常にまれですが脳炎やけいれん、アナフィラキシーなどの重大な副反応が起こる危険性もあります。しかし重大な副反応はまれであり、実際に感染した時のほうが重症化する確率が高いので、予防接種をことさら危険視しないほうがよいと思います。